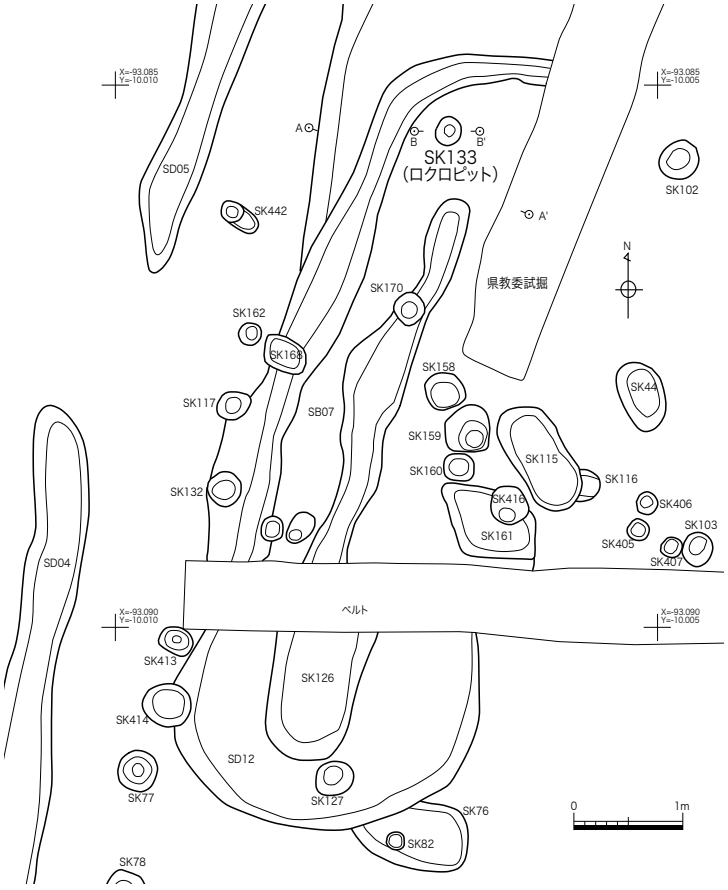
III. 刊行報告書抄録

第119集　金萩遺跡

遺跡は、日進市北新町字金萩に位置している。地形的には低丘陵地帯中の南側に向けた緩斜面となる。遺跡の周辺は猿投窯の岩崎地区に該当し、丘陵部には古代～中世前期の窯跡が分布している。

調査で確認できた遺構は、奈良時代～平安時代に集中している。基本的には竪穴住居と掘立柱建物で構成される集落遺跡だが、土器製作や搬出に関連する遺構も検出され、本遺跡の特色となっている。土器製作に関連する遺構にはロクロピットを付設する竪穴住居が１棟、搬出に関連する遺構では廃棄土坑や土器集積遺構などがある。廃棄土坑や土器集積遺構からは焼成ムラが確認できる多量の出土遺物が得られ、本遺跡が集落内で製品の二次選別も実施される製品の集荷場としての性格も併せ持っていたことが確認できた。　（池本正明）



SB07平面図



SK01



SU07

報告書抄録

ふりがな	かねはぎいせき
書名	金萩遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第119集
編著者名	池本正明・蔭山誠一・神谷巳佳・井上　厳・山形秀樹・畠山晃陽・高橋尚人
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
かねはぎ 金萩	あいちけんにっしんし 愛知県日進市 きたしんちょうかねはぎ 北新町金萩	23230	14006	35度 9分 39秒	137度 3分 25秒	1999.06 ～ 1999.09	2,500	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金萩遺跡	集落	旧石器・縄文		ナイフ形石器・石鏃	
		奈良・平安時代	竪穴住居 工房(ロクロピット) 土器集積遺構 粘土ピット	須恵器・灰釉陶器 土師器	土器製作に関連する集落

文書番号	発掘届出(12埋セ第64-1号・2000.5.1)　通知(12教生第216-20号・2000.6.1) 終了届(12埋セ第215号・2001.3.14)　保管証・発見届(12埋セ第214号・2001.3.4)

要約	猿投窯岩崎地区に位置する土器製作に関わったと推定される奈良・平安時代の集落遺跡。焼成不良品を集めた土器集積遺構も確認されており、製品の二次選別も実施されていた可能性が高い。

第120集　上中・西屋敷遺跡

上中西屋敷遺跡は、稲沢市北島町上中及び西屋敷に所在する遺跡である。遺跡は、北東-南西方向に延びる標高２～３ｍの微高地上の西端に立地する。調査は県道須成七宝稲沢線建設に伴う事前調査で、平成12年４月から12月にかけ、4,600㎡の面積をＡ～Ｉ区の13調査区に分割して行っている。

１　調査地点中央部の最も標高の高い地点において、古墳時代・古代の竪穴住居が９棟検出されている。うち１棟は松河戸Ｉ式で、５棟は７～８世紀に属する。また南側の落ち込みでも古墳時代～古代の遺物や、放射性炭素年代測定値が７世紀末から８世紀代を示すひょうたん・木片が出土している。

２　調査地点北側の高位部から低位部に移り変わる地点は、13基の方形土坑・井戸が検出され、16点の中世銭貨も出土していることから、13世紀前後には墓域空間であったと考えられる。

３　戦国期から江戸時代にかけて幾度かの大規模な開削・埋め立てが行われている。調査地点北側では池と思われる大型土坑とそれに繋がる溝が検出された。これらの遺構の掘削時期は溝底部より出土した天目椀の示す16世紀後半に近い時期と思われ、16世紀初頭に行われた「青宮寺」の移転に伴って掘削されたと推定した。さらにその南側には、井戸・埋甕などの水廻り施設を伴う建物跡や水田が広がり、江戸期の昆虫分析でも人為的な汚染環境とその付近にある水田といった環境が指摘されている。また南側では江戸初期に造成されたとする「八神街道」と推定される道路跡が検出されている。

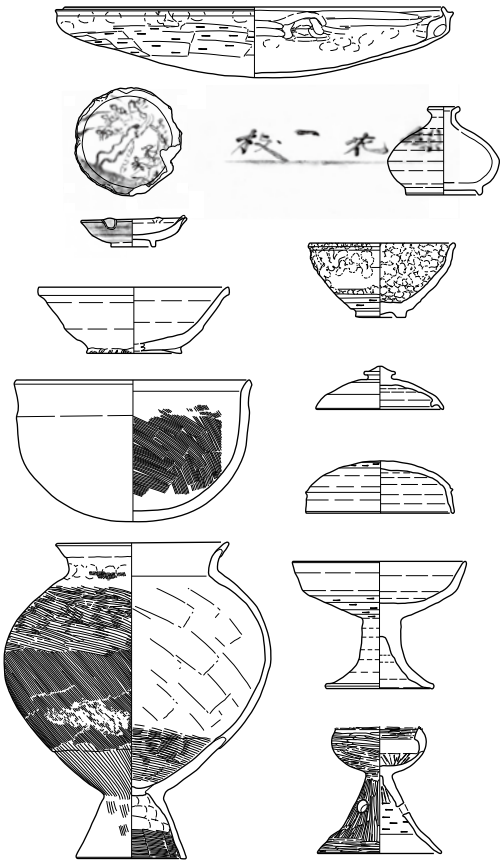
４　珪藻や放射性炭素年代測定などの層序分析により、本遺跡と土田遺跡、一色青海遺跡の堆積速度に違いがあり、それが東西方向の堆積面の高さの違いとなること、またそれが2500年前以降に形成されていることが判明した。　（宮腰健司）



F区SD01・SU01、SK01～04



Gb区２面遺構・SF01



上中・西屋敷遺跡出土土器

報告書抄録

ふりがな	かみなか・にしやしきいせき
書名	上中・西屋敷遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第120集
編著者名	宮腰健司・鬼頭　剛・森　勇一・上田恭子
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
かみなか 上中・ にしやしき 西屋敷	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 きたじまちょうかみなか 北島町上中 にしやしき および 西屋敷	23220	09210	35度 13分 38秒	136度 47分 46秒	2000.04 ～ 2000.12	4,600	県道須成七宝稲沢線建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上中・西屋敷遺跡	集落 墓 水田	古墳 古墳～平安 鎌倉～室町 江戸	竪穴住居 水田 土壙 井戸 区画溝	土器 土製品 須恵器・土師器 銅銭 木製品 石製品 瓦	

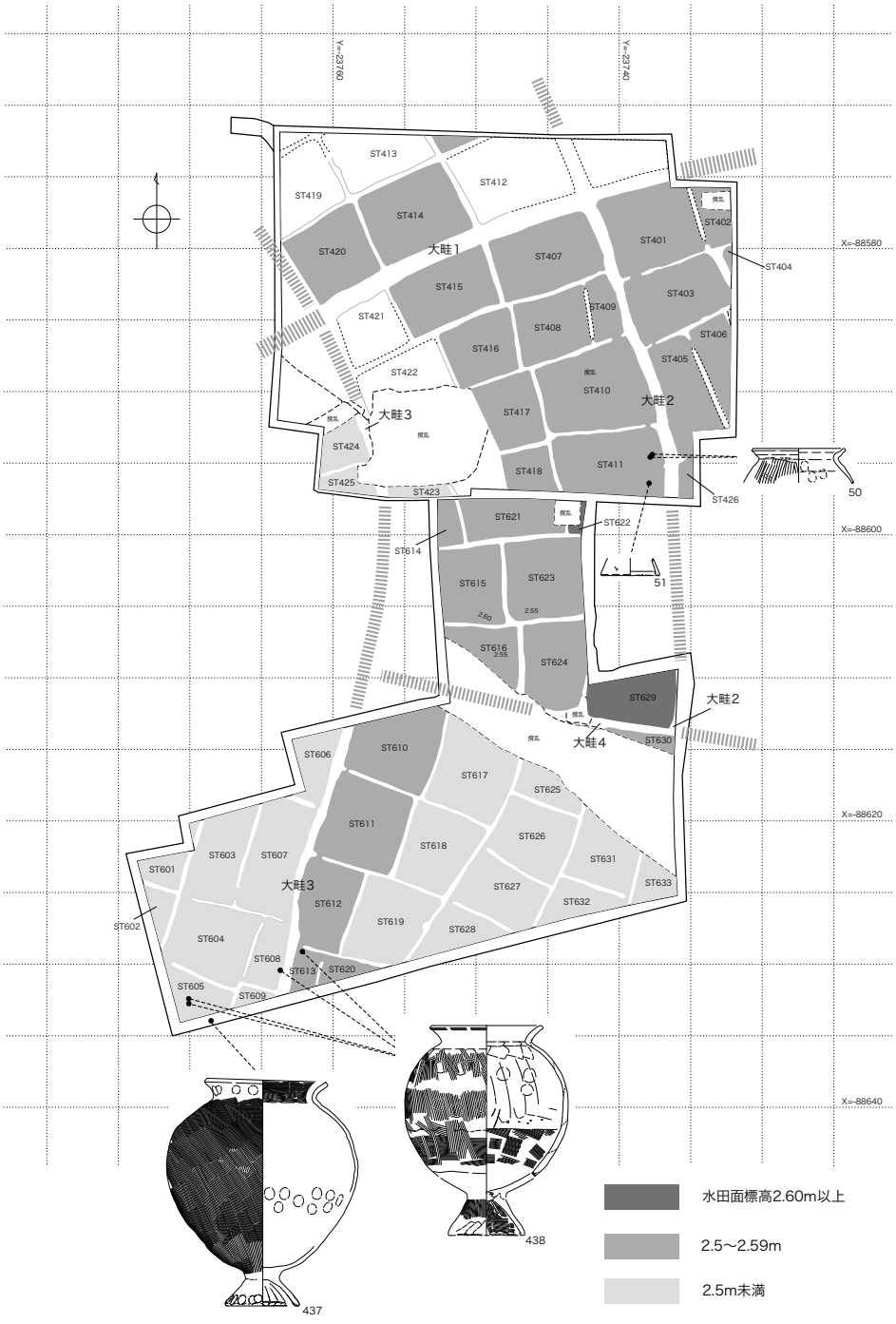
文書番号	発掘届出(12埋セ第44号・2000.4.3)　通知(12教生第216-14号・2000.6.5) 終了届・保管証・発見届(12埋セ第174-1,175-1,2号・2000.12.14)

要約	今回の調査では調査区の中央部の最も標高の高い地点で、古墳時代・古代の竪穴住居９棟が検出されている。また南側の落ち込みより該当時期の須恵器や自然遺物が出土している。B・C区では13基の方形土坑・井戸が検出され、中世銭貨も16点出土していることから、墓域と考えられた。調査区北側では池と推定される大型土坑とそれに接続する溝が検出された。溝底より16世紀後半の天目茶碗が出土しており、これらの遺構は16世紀初頭の「青宮寺」の移転による掘削と考えられた。また大型土坑が江戸後期には埋没してしまうなど、戦国期から江戸期にかけて幾度かの大規模な開削・埋め立てが行われており、居住地や水田、また「八神街道」と推定される道路遺構が検出されている。

第121集　志賀公園遺跡 II

遺跡は、名古屋市北区中丸町に所在している。遺跡付近は庄内川下流の沖積地で、南西には弥生時代の著名な西志賀遺跡がある。

調査で確認できた遺構は、①古墳時代前期から中期にかけての水田、②古代の竪穴建物・区画溝・河道、③中世の掘立柱建物・井戸・土坑・区画溝などである。①は上下２面の小区画水田が見つかり、とくに下面では大畦による中区画が確認された。②は中世の削平が著しく、竪穴建物は痕跡程度にすぎないものであった。河道からは７世紀後半から８世紀初頭に属す多量の木製品や須恵器・土師器が出土し、前回調査と同様の成果を得た。③は古代の河道跡の北縁に沿う区画溝を挟んで北側の微高地が居住域、南側の窪地が墓域であり、地表面に起伏のある農村景観の一端が明らかになった。　（石黒立人）



上層水田プラン（1：500）

報告書抄録

ふりがな	しがこうえんいせき に
書名	志賀公園遺跡 II
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第121集
編著者名	石黒立人・樋上　昇・鬼頭　剛・堀木真美子・森　勇一・上田恭子・松岡敬二・佐藤昌憲
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
しがこうえん 志賀公園	あいちけんなごやし 愛知県名古屋市 きたくちゅうまるちょう 北区中丸町 にちょうめ 2丁目	23102	01-2015	35度 12分 15秒	136度 54分 30秒	2000.1 2001.03	2,030	都市整備公団アーバニア志賀公園建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
志賀公園遺跡	集落	古墳前期	水田	土師器	
		古墳中期	水田	土師器・木製品	水田面から出土した甕
		古代	竪穴住居・自然流路	須恵器・土師器 木製品	
		中世戦国	掘立柱建物・井戸 池状遺構・溝・土坑	灰釉系陶器 施釉陶器	

文書番号	発掘届出(12埋セ第143-2号・2000.10.4)　通知(12教生第216-31号・2000.10.18) 終了届(12教生第216-31号・2000.10.18)　保管証・発見届(12埋セ第218号・2001.3.23)

要約	今回の調査では大きく3時期の変遷が確認された。古墳時代では上下2面の小区画水田が発見され、これは従来の調査成果にはない新知見である。古代では、活発な水流を伴う大溝とそれに隣接する小範囲の居住域が確認された。河道は前回調査につながるもので、前回同様に7世紀後半から8世紀にかけての多量の遺物が出土した。中世では、古代の河道跡が窪地状をなし、そこが墓域として利用され、北側の微高地に居住域が展開する景観が復元できた。中世段階の地表面はかなり起伏のあったことが窺われた。

第123集　四池Ａ古窯

Ⅰ　経過

知多半島横断道路の拡張工事に伴い愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じての委託事業として実施。調査面積は600㎡。調査期間は平成13年５月１日から６月16日まで。

Ⅱ　環境

本窯は知多古窯が展開する愛知県知多半島中央部西海岸の常滑市域に位置する。所在地は愛知県常滑市金山字四池。

Ⅲ　調査

窯体１基

（床面残存で残存長８ｍ幅３ｍ、傾斜角度19度）

溝３条（小谷地形）と近世遺構としての階段状遺構・堤状遺構・池跡・土坑１基。

出土遺物は甕・広口壺が主体でその他に鉢・椀・羽釜・陶丸・陶錘・加工円盤（総破片数1310点）

その内で線刻文６点が注目される。

13世紀前葉を中心とした操業

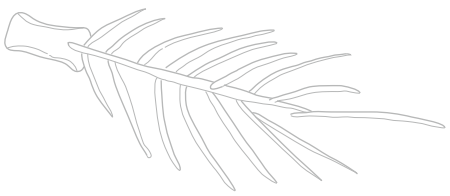
Ⅳ　考古地磁気分析

残留磁気推定年代：A.D.1150±20年

Ⅴ　総括

四池Ａ古窯は、甕・広口壺を中心とした焼成窯であり、赤羽・中野編年５型式を中心とした資料が出土しており、13世紀前葉を中心とする操業である。押印文は大きく二種類に区分できるものが主体的に使用されており、大型品の製作・企画性などから、専業的な製作者集団のまとまりを想定できる。また有耳壺に線刻を施す資料が見られ、放射状と木葉文の二種類であり、常滑・武豊地域を中心とする特殊・限定的な生産体制が復原できる。なお木葉文の出土は初例である。

（赤塚次郎）



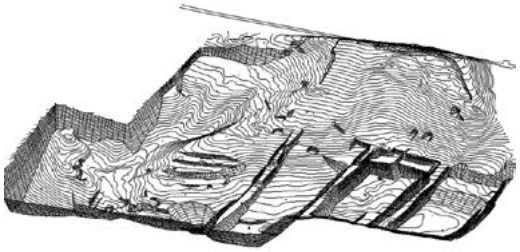


図５　四池Ａ古窯３Ｄ（斜め上より）



図18　調査区中央部（北東から）



図28　窯体調査（北から）

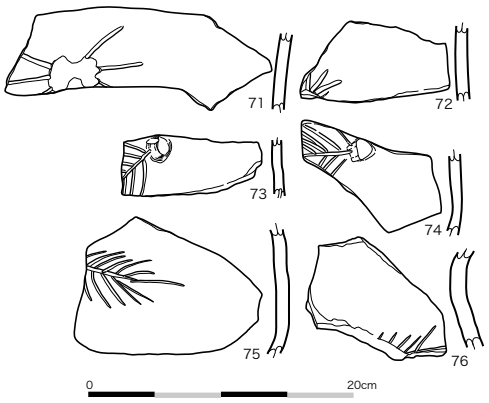


図47　線刻文

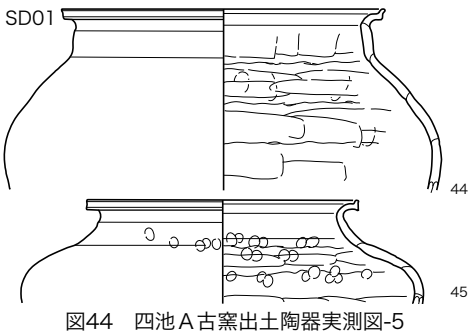


図44　四池Ａ古窯出土陶器実測図-5

報告書抄録

ふりがな	しいけえいこよう
書名	四池A古窯
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第123集
編著者名	赤塚次郎
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
しいけえい 四池A	あいちけんとこなめし 愛知県常滑市 かなやまあざしいけ 金山字四池	23216	42062	34度 53分 58秒	136度 51分 22秒	2001.05.06 ～ 2001.06.16	600	知多半島横断道路拡張工事に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
四池A古窯	古窯跡	鎌倉時代	窯床面	甕・壺	有耳壺片 (放射状文と木葉文)
		近世	池跡・堤状遺構 階段状遺構		

文書番号	発掘届出(12埋セ第216-43号・2001.1.29)　通知(12教生第216-43号・2001.3.26) 終了届・保管証・発見届(13埋セ第42-1.2.5号・2001.6.19) 鑑査結果通知(12教生第216-43号・2001.6.28)

要約	本窯は、甕・広口壺を中心とした焼成窯であり、13世紀前葉を中心とする操業である。窯体及び関連施設はすでに大きく破壊されており、僅かに焼成室の一部である床面が残存していたのみ。有耳壺に線刻を施す資料が見られる。放射状と木葉文の二種類であり、常滑・武豊地域を中心とする限定的な生産体制が復原できる。

第124集　宇トゲ窯跡・中洞窯跡

整理作業における成果は、以下の２点に集約される。

一点目は、地形変化の影響を大きく受け、窯体部分の燃焼室側下半部と、若干の前庭部・整地部分しか残存していなかった、中洞窯跡の歴史的意義についてである。古瀬戸中期前半を主体とする中洞窯跡の調査区全体から、古瀬戸後期II段階を中心とする資料が見つかっており、それは主に上層に集中している。上層の堆積は中洞窯跡の地形の平坦化に有機的な関連が見られるものである。地形が平坦化した時期ののちに古瀬戸後期II段階の陶器が搬入されたものと考えられ、搬入元は尾根を挟んで北側の宇トゲ窯跡からの可能性が高い。中洞窯跡では、盗掘など後世の撹乱が激しく、上面での遺構検出ができなかった。しかし、平坦化した中洞窯跡の地が、宇トゲ窯操業に関わる作業空間になった可能性も考えられる。

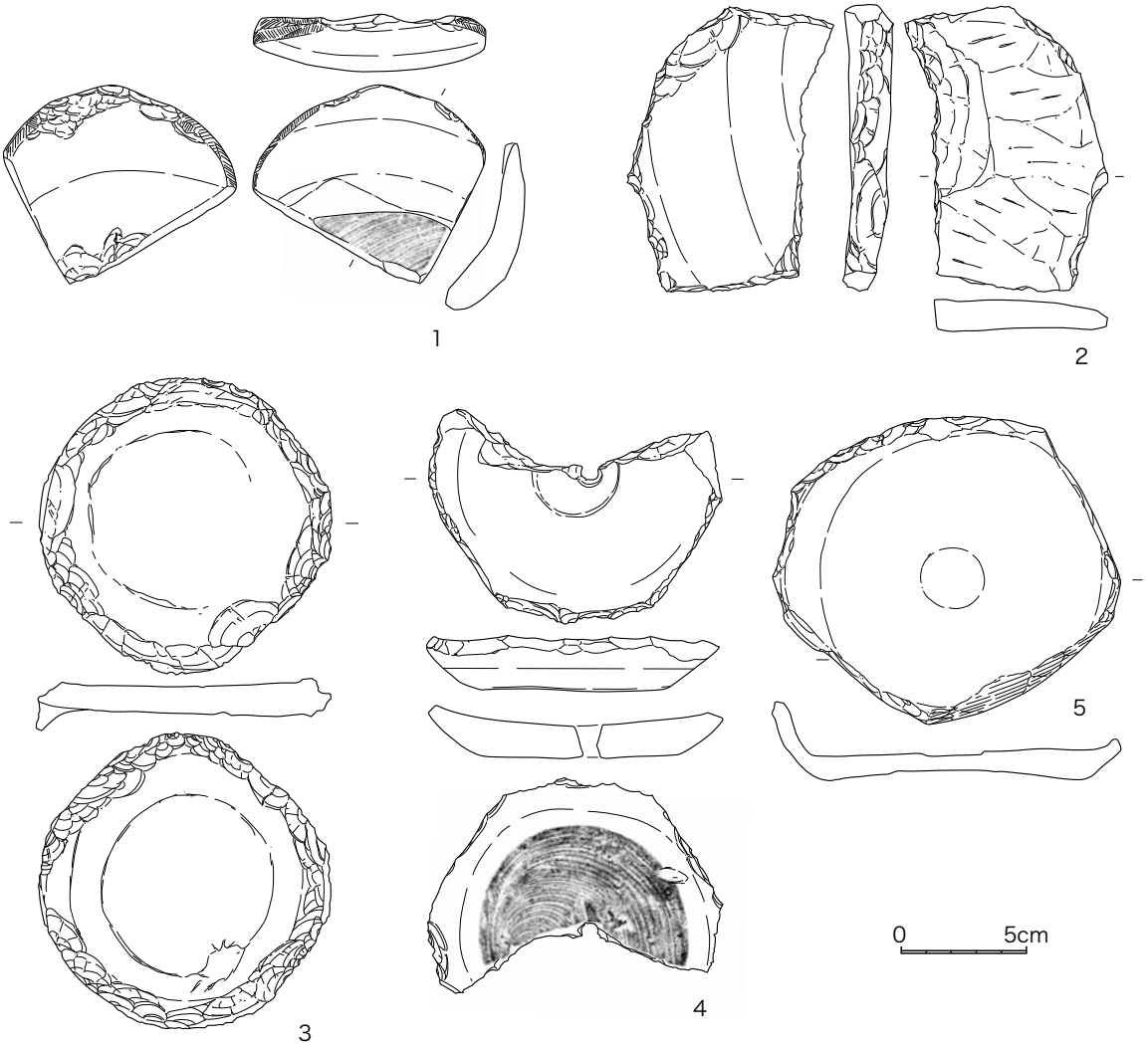
二点目は、中洞窯跡から、当窯で製作されたと考えられる陶器の破片を利用して、調整具などに転用した例が見つかったことである。窯業生産工程の復元に実証的資料として提示できるばかりでなく、明らかな搬入品を除く窯跡から出土する遺物を、単にすべて「失敗品」と一括することに再考が迫られる事例といえよう。　（川添和暁）

本文118頁、写真図版21PL

CD-ROM集録データー

○報告書PDF版　　○遺物登録一覧表

○宇トゲ窯跡・中洞窯跡現地説明会用資料データー



中洞窯跡出土の陶器片を利用した「調整具」(1：3)

報告書抄録

ふりがな	うとげかまあと・なかぼらかまあと
書名	宇トゲ窯跡・中洞窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第124集
編著者名	川添和暁・植田弥生・山形秀樹・藤根　久・Zauri Lomtatize
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
うとげかま 宇トゲ窯	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	03092	35度 15分 9秒	137度 8分 28秒	2001.07 ～ 2001.08	400	東海環状自動車道建設に伴う事前調査
なかぼらかま 中洞窯	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	03410	35度 15分 4秒	137度 8分 36秒	2001.07 ～ 2001.10	1,200	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宇トゲ窯跡	窯業遺跡	中世	作業施設1・灰原	灰釉系陶器(山茶椀) 施釉陶器(古瀬戸)	古瀬戸後期IIの一括資料
中洞窯跡	窯業遺跡	中世	窯体1 作業施設3 整地部分 灰原	灰釉系陶器(山茶椀) 施釉陶器(古瀬戸) 砥石・陶器転用品 灯明皿	地滑りによる窯体の破壊 陶器転用品のまとまった出土
	遺物散布	縄文～弥生		縄文土器・弥生土器	
	遺物散布	近代以降		陶器	

文書番号 (宇トゲ窯跡)	発掘届出(13埋セ第25-1号・2001.5.30)　通知(13教生第36-4号・2001.6.22) 鑑査結果通知(13教生第36-4号・2001.12.11)
文書番号 (中洞窯跡)	発掘届出(13埋セ第25-2号・2001.5.30)　通知(13教生第36-5号・2001.6.22) 鑑査結果通知(13教生第36-5号・2001.12.11)

要約	両窯跡は、尾根を挟んで南北に存在し、中洞窯・宇トゲ窯の順に操業されていた。中洞窯は操業中あるいは操業後に、水流および地滑りによる地形が平坦化した模様である。遺物の検討から、その平坦化した後に、宇トゲ窯の遺物が持ち込まれていることが判明した。これは、宇トゲ窯操業時には、かつての中洞窯の場所が作業空間になった可能性をも考えられ、当時の窯業生産の「場」の復元において注目される事柄である。また、中洞窯跡からは、失敗した陶器片を調整具などに転用した例が数点見つかっている。

第125集　吉野遺跡

調査の成果

吉野遺跡は、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。以下に、今回最も注目される縄文時代を中心に記す。

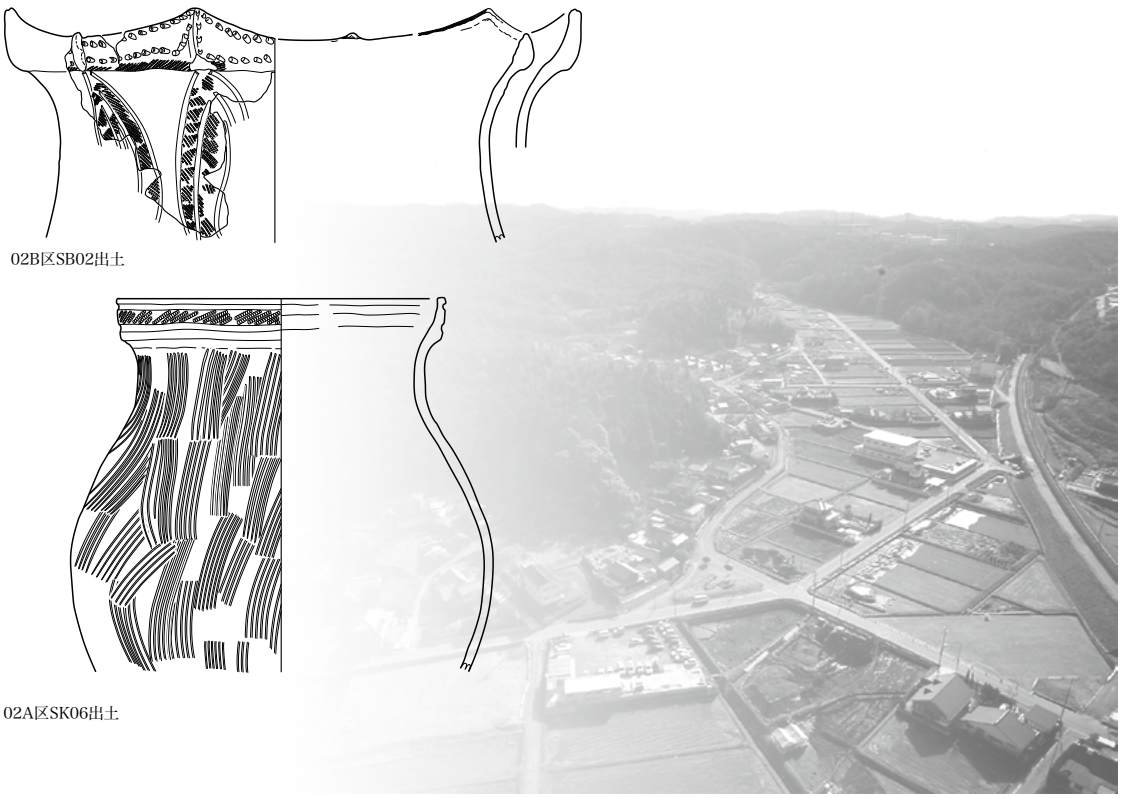
（1）吉野遺跡の立地する沖積地は、南東方向の２つ丘陵地に挟まれた谷底平野である。吉野遺跡はこの丘陵地に挟まれた細長い平野が扇状地状に大きく広がり、北西に流れる矢田川へ向かって徐々に低くなる手前に位置する。縄文時代には後背湿地から埋積谷へと続く東側を除く３方向は自然流路に囲まれた1,500㎡の微高地が形成されており、ここに中期後半から後期前葉を中心とする遺構群が展開する。

（2）縄文時代後期初頭前後として注目できる遺構としては、02B区SB02・SB03があげられる。いずれも、竪穴住居と想定できる。一方で否定的な条件もある。SB02は柱穴と考えられる痕跡がない。SB03は炉がない。いずれにしてもほぼ同時期の住居が２棟しか確認できない。

（3）前記の竪穴住居のほか、大型石器類（石皿・台石）を埋設した遺構が７ヶ所確認できた。なかでも02A区SK59は微高地の縁辺に位置し、20㎝超の大型石器類が３個体埋設されていた。

（4）出土した土器は、縄文時代後期初頭から前葉に比定できる資料群が注目できる。なかでも02B区SB02資料はまとまりがあり、知多地域の林ノ峰Ｇ層に比定できる。そのほか、中津式に比定できる資料群が包含層資料の大半を占める。

（6）注目できる石器類としては、石錘があげられる。石錘は切目石錘11点、礫石錘７点ある。いずれも大（90ｇ以上）・中（50ｇ前後）・小（20ｇ前後）にまとまりがある。　（永井宏幸）



02B区SB02出土

02A区SK06出土

報告書抄録

ふりがな	よしのいせき
書名	吉野遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第125集
編著者名	永井宏幸・小澤一弘・川添和暁・原田　幹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
よしの 吉野	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 よしのちょう 吉野町・ やとちょう 屋戸町	23204	03918	35度 11分 43秒	137度 6分 29秒	2001.01.26 ～2001.03.30 2001.11.05 ～2001.12.17 2002.10.02 ～2003.02.06	540 890 2,300	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉野遺跡	集落	縄文時代	竪穴住居・土坑	縄文土器・縄文石器	縄文中期後葉と後期前葉の土器群
		弥生時代	水田？・土坑	弥生土器	
		古墳時代	自然流路 柵状遺構	土師器	古墳時代前期の柵状遺構
		中世	溝・土坑	灰釉系陶器	

文書番号	発掘届出(12埋セ第163-1号・2000.11.1／13埋セ第103号・2001.10.3／14埋セ第58号・2002.7.25) 通知(12教生第216-37号・2000.12.7／13教生第36-19号・2001.10.25／14教生第72-6号・2002.10.30) 終了届(13埋セ第145号・2001.12.17／14埋セ第149号・2003.2.12) 保管証(13埋セ第145号・2001.12.17／14埋セ第148号・2003.2.12) 発見届(13埋セ第145号・2001.12.17／14埋セ第146号・2003.2.12) 鑑査結果通知(12教生第216-37号・2001.5.28／13教生第36-19号・2002.1.21／14教生第72-6号・2003.3.31)
要約	吉野遺跡は、標高100ｍ前後の丘陵地に挟まれた細長い谷底平野に位置する。今回最も注目される成果としては、縄文時代中期後葉から後期前葉を中心とした遺構・遺物群である。縄文時代の遺構が展開する微高地はまわりを自然流路と後背湿地あるいは埋積谷に囲まれた1,500m^2の非常に狭い空間である。竪穴住居とした遺構は２ヶ所のみ、ほかは土坑・ピットの性格不明遺構がほとんどであった。そのうち、大型石器を埋設した土坑が７ヶ所確認できた。出土した土器群のうち、02Ｂ区SB02は比較的まとまりがあり、概ね知多地域の林ノ峰Ｇ層に比定できる。今後当地域の基準資料として注目できる。

第126集　長谷口遺跡

調査の成果

(1)縄文時代早期末葉

集石遺構２基のほか、ピット・土坑などがあったが、住居は確認できなかった。一方、土器群は比較的まとまりがある。入海II式新相、石山式(塩屋中層Ａ式・Ｂ式)、天神山式古相のまとまりがみとめられた。残念ながら、層序による確認はできなかった。

(2)縄文時代中期後葉

竪穴住居２棟と土坑数基、これらに伴う土器群に好資料が得られた。02区SB06は五角形プランの竪穴住居、長野県伊那方面との関係が示唆できる。

(3)弥生時代中期後葉から後期初頭

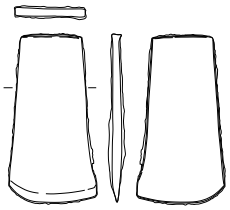
竪穴住居２棟と土坑１基。このうち土坑02区SK120から板状鉄斧が出土した。後期初頭の住居と切り合い関係があり、後期初頭以前とした。県内では２例目。

(4)古代

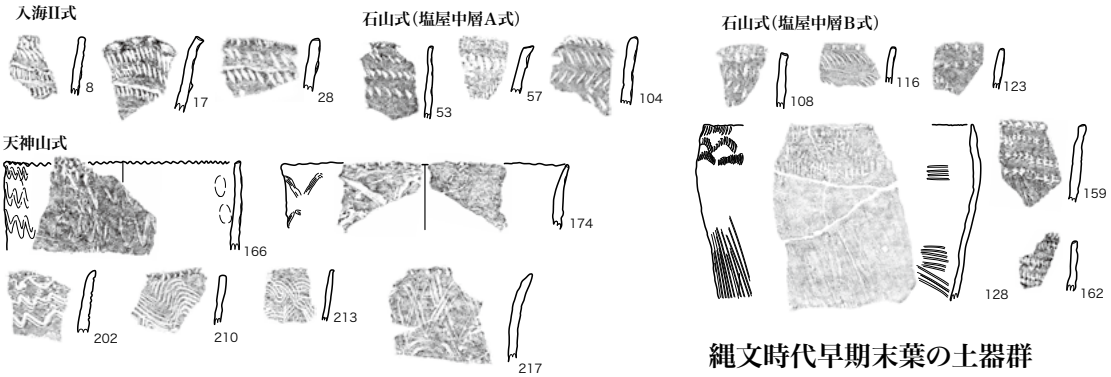
竪穴住居３棟と土壙墓１基。

(5)近世末

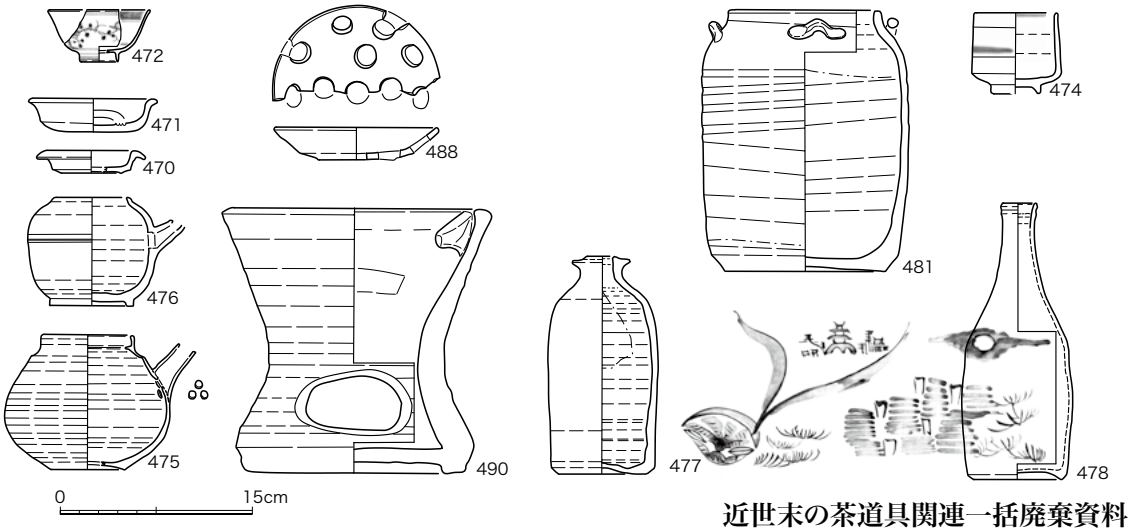
調査区最上段に長谷口Ｂ窯の操業と同時期の居住地が確認できたことと、茶道具に関連する一括廃棄(SU01)。　(永井宏幸)



弥生時代の板状鉄斧



縄文時代早期末葉の土器群



近世末の茶道具関連一括廃棄資料

縮尺は全て1:6

報告書抄録

ふりがな	はせぐちいせき
書名	長谷口遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第126集
編著者名	永井宏幸・川添和暁・原田　幹・小澤一弘
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
はせぐち 長谷口	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 はせぐちちょう 長谷口町	23204	03779	35度 13分 33秒	137度 8分 12秒	2000.08.18 ～2000.11.08 2002.07.01 ～2002.09.09	1,200	東海環状自動車道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長谷口遺跡	集落	縄文時代早期末葉	土坑・ピット	縄文土器・石器 土製品	縄文時代早期末葉の一括資料
		中期後葉	竪穴住居・土坑 埋甕	縄文土器・石器	五角形プラン竪穴住居
		弥生時代中期～後期	竪穴住居・土坑	弥生土器・石器・鉄斧	板状鉄斧
		古代	竪穴住居・土壙	須恵器・灰釉陶器 土師器甕	
		中世後期	土壙・土坑 ピット・溝	灰釉系陶器・古瀬戸製品 土師器・銭貨	
		近世末	土坑・ ピット・溝	瀬戸産陶磁器・土師器 窯道具	茶道具(煎茶?)の一括廃棄資料

文書番号	発掘届出(12埋セ第163-2号・2000.7.8／14埋セ第26号・2002.5.30) 通知(12教生第216-35号・2000.12.7／14教生第72-4号・2002.6.18) 終了届・保管証・発見届(14埋セ第73号・2002.9.17) 鑑査結果通知(12教生第216-35号・2001.5.28／14教生第72-4号・2002.11.5)

要約	長谷口遺跡は、標高200m前後の山地裾に位置する。縄文時代から近世末、都合6期にわたる複合遺跡である。これら多岐にわたる時期のうち、特に注目される時期は、縄文時代早期末葉と近世末の2時期ある。縄文時代早期末葉については、隣接する八王子遺跡から継続した集落遺跡として、遺構は集石遺構2基のみであるものの、豊富な土器と石器資料に恵まれた。近世末については、隣接する長谷口B窯跡と同時期の居住地が確認でき、さらに茶道具(煎茶か)に関連する一括廃棄資料があげられる。

第127集　名古屋城三の丸遺跡VII

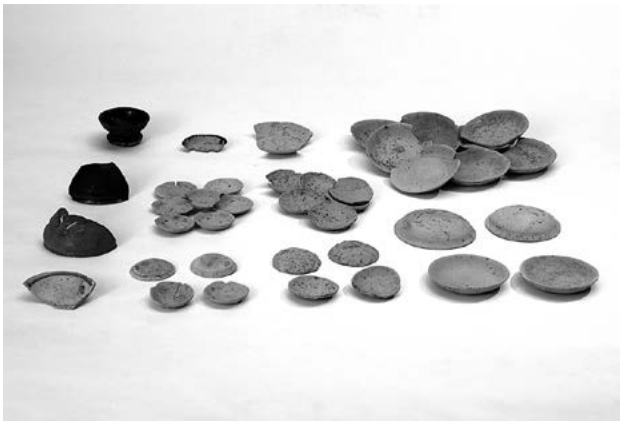
今回の調査は、国立名古屋病院（現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）の看護婦養成所大型化整備事業に伴う事前調査として、愛知県埋蔵文化財センターが愛知県教育委員会を通じて委託を受けて実施した。調査地点は名古屋城三の丸の北東部に相当する。現地における発掘調査は朝日航洋株式会社の支援を受けて行い、石黒立人、鈴木正貴、鵜飼雅弘が調査を担当した。　（鈴木正貴）



SK308出土遺物



SK226出土遺物



SK147出土遺物



SK185出土遺物



SK94出土遺物



SK96出土遺物

報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせき　な
書名	名古屋城三の丸遺跡 VII
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第127集
編著者名	鈴木正貴・早野浩二・永井邦仁・鬼頭　剛・古澤　明・森　勇一・上田恭子・堀木真美子・小村美代子・植田弥生・鵜飼雅弘
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
なごやじょう 名古屋城 さんのまる 三の丸	あいちけんなごやし 愛知県名古屋市 なかくさんのまる 中区三の丸 よんちょうめ 4丁目	23106	01-7027	35度 10分 33秒	136度 54分 5秒	2002.04.01 ～ 2002.09.30	1,100	看護婦養成所大型化整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
名古屋城 三の丸遺跡	集落	古墳～奈良時代	竪穴住居跡7棟 掘立柱建物跡 溝・土坑など	土師器・須恵器 灰釉陶器	古墳時代から古代の集落
	城郭	鎌倉～戦国時代	掘立柱建物跡 柵列・溝・井戸 土坑など	山茶碗類 瀬戸美濃窯産陶器 肥前窯産陶磁器・石器 石製品・木製品・木材 金属製品およびその関連遺物	那古野城関連の遺構を検出
		江戸時代	池・石組溝 掘立柱建物跡 溝・土坑など		江戸時代の庭園遺構を検出 御屋形に関する遺構群
		明治～昭和時代	礎石建物跡 井戸・土坑など	ガラス製品など	名古屋陸軍病院の病棟やその関連遺物

文書番号	発掘届出(13埋セ第171号・2002.2.28)　通知(13教生第36-26号・2002.3.6) 終了届・保管証・発見届(14埋セ第82号・2002.9.20)

要約	今回の調査で確認された遺構や遺物を4期に大別した。古墳時代から古代では竪穴建物を中心とした集落が確認された。中世では戦国時代の那古野城に関連する屋敷群とそれに先行する集落の存在が明らかになった。近世では当初名古屋城三の丸の武家屋敷が展開したが、17世紀中頃に尾張藩主徳川家の親族らが居住する御屋形が建設され、それに伴う庭園遺構や石組溝が検出された。庭園遺構は池泉鑑賞式庭園で屋敷の中庭的存在であったと推測される。近代では名古屋陸軍病院に関連する遺構や遺物が発見され、戦時中の切迫した物質生活様相を明らかにした。土師器皿や鍋類、及び遺構の変遷を辿ることにより、当地域における物質生活上の画期や歴史的な変遷を考察することができた。

第128集　荒山古墳群

荒山古墳群は、豊田市渡合町に所在する遺跡である。遺跡は、ほぼ東西に延びる標高77～81ｍの丘陵頂部平坦面の西端に立地する。調査は第二東海自動車道建設に伴う事前調査で、1,200㎡の面積を、平成14年４月から７月にかけて行っている。

１　石室を有する古墳２基（１号墳・２号墳）と盛り土された高まりSX01が検出された。

２　１号墳は径７～８ｍの円または方墳で、盛り土部はほとんど流失していた。築造時期は６世紀末～７世紀初頭で、７世紀前半まで追送が行われていたと考えられる。石室内より、須恵器や太刀・刀子・鉄鏃・銀環などの金属製品、ガラス小玉・滑石製小玉・水晶製管玉・瑪瑙製勾玉が出土している。

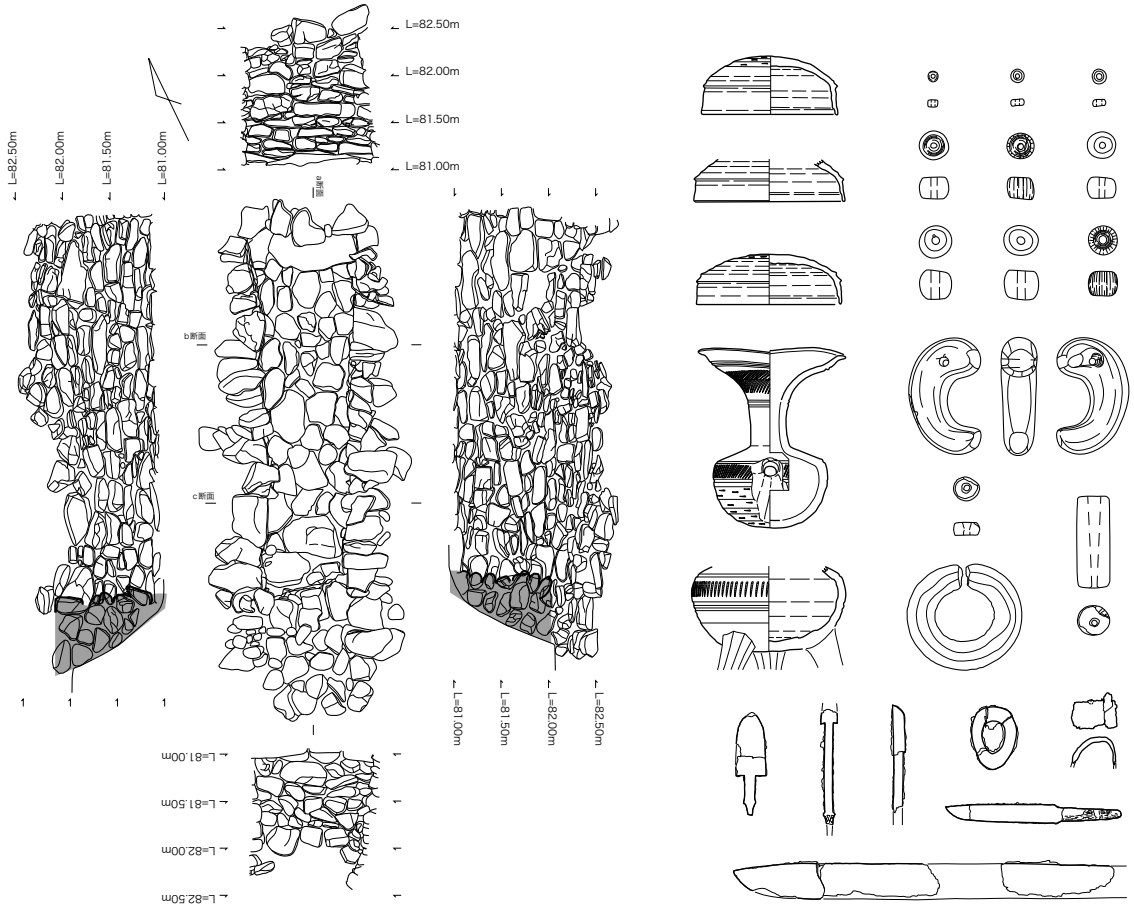
３　石室は竪穴系横口式石室で、（１）玄室平面形は長方形で入り口部は無袖式、（２）横口部は92㎝の高さをもつ段構造をなし、（３）奥壁・側壁・横口部框石とも横長石を多石多段に積み、（４）石室を構築するために地山に墓壙を掘削するなどの特徴がある。この型式の石室は西三河地域を中心に分布するもので、１号墳の石室は巴川を挟んだ対岸にある岡崎市雨戸古墳の石室と類似する。また築造された時期に例の少ない多石多段積みに関しては尾張北東部地域との関連が考えられた。

４　２号墳は墳丘・遺物とも確認されなかったが、周囲から出土した須恵器から６世紀末～７世紀中頃と想定した。石室は小型の両袖・疑似両袖型となる。

５　２号墳周辺から出土した三足壺は、北九州と美濃・尾張に分布の中心があり、竪穴系横口式石室を含め両地域の関連が窺える資料となる。

６　幕末～昭和初期にかけて、焜炉・練炭熾し・陶磁器を用いた人為的痕跡が１号墳付近にみられる。

（宮腰健司）



荒山１号墳（SZ01）石室と荒山古墳群出土遺物

報告書抄録

ふりがな	あらやまこふんぐん
書名	荒山古墳群
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第128集
編著者名	宮腰健司・鬼頭　剛・森　勇一・上田恭子
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
あらやま 荒山 こふんぐん 古墳群	あいちけんとよたし 愛知県豊田市 どあいちょう 渡合町	23211	63380 63381	35度 2分 31秒	137度 10分 47秒	2002.04 ～ 2002.07	1,200	第二東海自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
荒山 古墳群	墓	古墳	古墳(円墳か) 竪穴系横口式石室 横口式石室	須恵器・土師器 勾玉・ガラス小玉 滑石製小玉・耳環	三足壺 銀環
		室町～江戸		土師皿・焜炉	

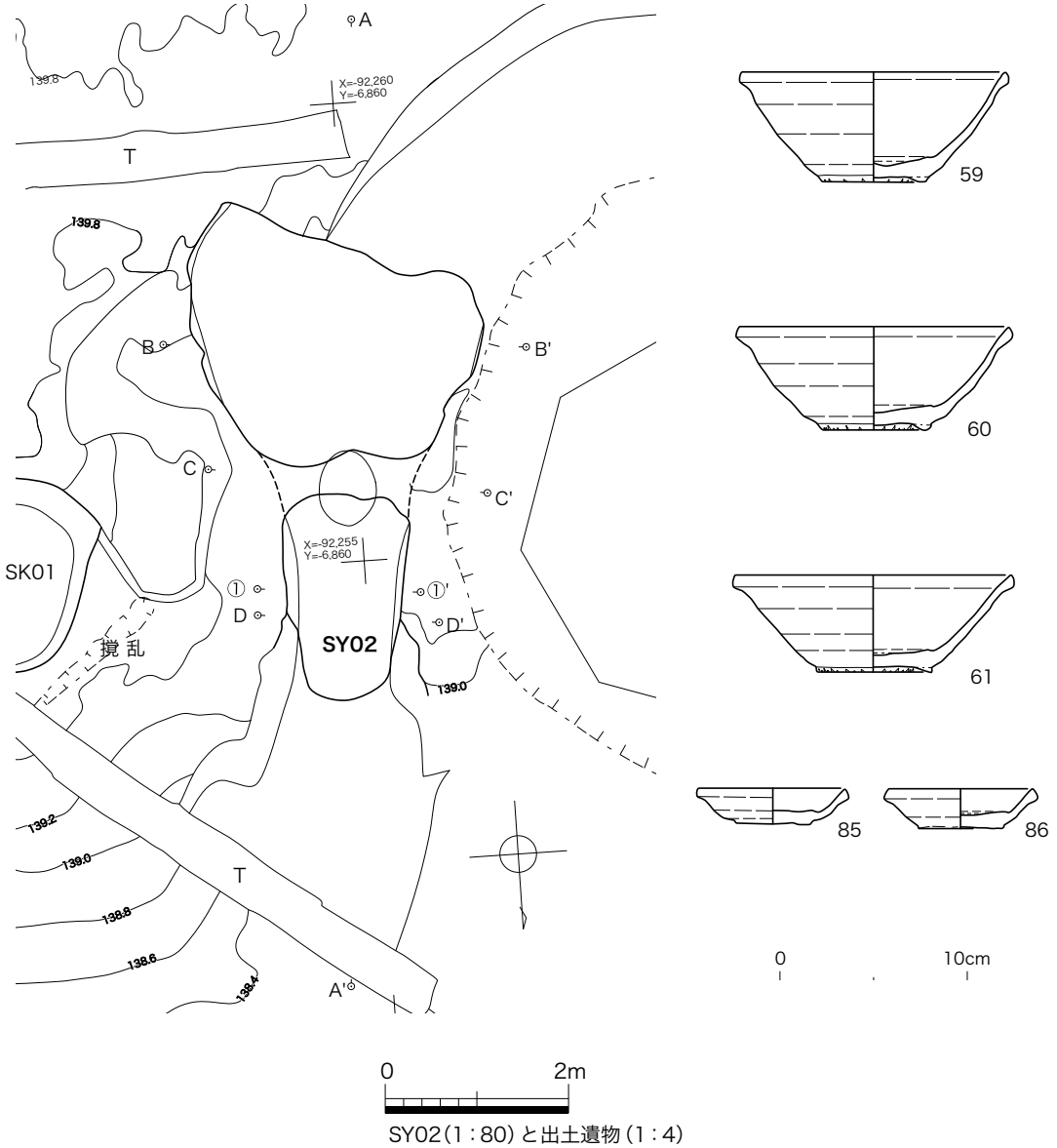
文書番号	発掘届出(13埋セ第165号・2002.2.25)　通知(13教生第33-138号・2002.2.13) 終了届・保管証・発見届(14埋セ第52号・2002.7.29) 鑑査結果通知(教文発第33-138・2002.8.22)

要約	今回の調査では石室を有する古墳２基(１号墳・２号墳)と、盛り土された高まりSX01が検出されている。１号墳は径７～８ｍの円または方墳で、石室内より出土した須恵器や太刀・刀子・鉄鏃より、築造時期は6世紀末～7世紀初頭で、7世紀前半まで追送が行われていたと考えられる。石室は竪穴系横口式石室で、玄室平面形は長方形を呈し、横口部に92㎝の段構造をもつ。また奥壁・側壁・横口部框石とも、横長の扁平な石が多石多段積みされる。この１号墳の石室は巴川を挟んだ対岸にある岡崎市雨戸古墳と類似する。また築造時期に類例の少ない多石多段積みに関しては、尾張北東部との関連が考えられた。２号墳は墳丘・遺物とも確認されなかったが、周辺から出土した須恵器から６世紀末～７世紀中頃と想定した。石室は小型の両袖・疑似両袖型となる。また北九州と美濃・尾張地域にみられる三足壺も出土している。

第129集　I－G－2号窯

I－G－2号窯は愛知郡長久手町東部、愛知青少年公園敷地内に所在する。遺跡は三ヶ峯丘陵を構成する一支丘の北斜面に立地し、焚口付近の標高は約139mである。窯体は中世東海地方に通有の分焔柱を有する窖窯であり、調査の結果３基の存在を確認したが、いずれも焼成室上半及び煙道部は削平されており、燃焼室及び焼成室下半を対象に調査を行った。

主な焼成品は山茶椀・小皿・陶丸であり、本窯が山茶椀専焼窯であることが確認された。遺物は13世紀前葉から中葉にかけて焼成されたと考えられ、継続的な経営が想定される。周辺で過去に実施された調査事例でもほぼ同じ時期の年代観が与えられていることから、猿投窯岩崎支群の窯業生産が13世紀前半にピークに達したことを示す、貴重な事例として位置づけられよう。また、このほかの出土遺物として伊勢型鍋、甕などが挙げられる。　（鵜飼雅弘）



SY02（1：80）と出土遺物（1：4）

報告書抄録

ふりがな	あいじーにごうかまあと
書名	I−G−2号窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第129集
編著者名	鵜飼雅弘
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
あいじーに I−G−2 ごうかま 号窯	あいちけんあいちぐん 愛知県愛知郡 ながくてちょうおおあざやざこ 長久手町大字岩作 あざさがみね 字三ケ峯	23304	15033	35度 10分 6秒	137度 5分 27秒	2003.04.07 ～ 2003.07.07	350	青少年公園再整備に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
I−G−2 号窯跡	古窯跡	鎌倉時代	窯体3基	灰釉系陶器	山茶椀・小皿・陶丸を焼成

文書番号	発掘届出(14埋セ第156号・2003.2.28)　通知(14教生第72-14号・2003.3.7) 終了届・保管証・発見届(15埋セ第24号・2003.6.20) 鑑査結果通知(14教生第72-14号・2003.8.15)

要約	本窯は山茶椀・小皿・陶丸を焼成した、いわゆる山茶椀専焼窯である。中世東海地方に通有の分焔柱を有する窖窯であり、窯体を3基確認したが、いずれも上半は滅失した状態であり、燃焼室及び焼成室の一部を確認するに留まった。遺物の年代観から、13世紀前葉から中葉にかけての操業が考えられる。本窯は猿投窯岩崎支群の一群に含まれており、周辺の丘陵を含めた窯業生産の実態を示す一資料として位置づけることができる。

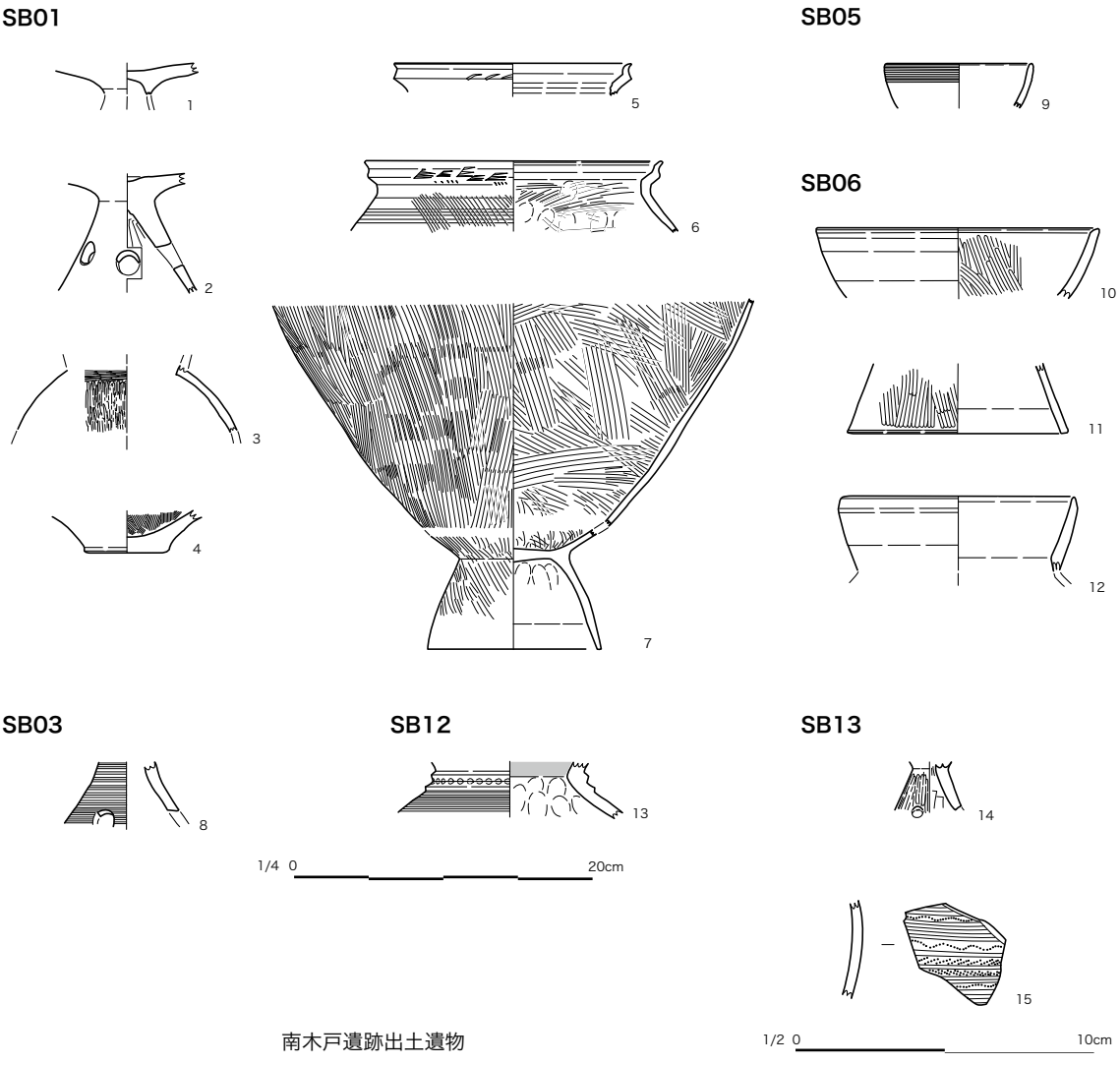
第130集　南木戸遺跡

南木戸遺跡は、一宮市萩原町河田方字南木戸に所在している。地形的には、濃尾平野を北東から南西に流れる木曽川の一支流である日光川の左岸に形成された沖積微高地上に立地し、現地表面での標高は約５ｍを測る。

1962(昭和37)年には、名神高速道路の建設に際して、古墳前期の土器・木製品が大量に出土している。今回は、この名神高速道路の側道にあたる市道256号線の下に水道管を埋設するための事前調査としておこなわれた。

その結果、古墳初頭(廻間Ⅰ式期後半～同Ⅱ式期初頭)に属する竪穴住居11棟・小型掘立柱建物２棟・溝１条・土坑55基のほか、古代から近世にかけての遺構を確認した。古墳初頭の集落は、東西幅約30mの狭い微高地上に展開しており、竪穴住居の規模も小さいことから、比較的短期間の小規模な居住域と推定される。

しかしながら本遺跡の周辺には、八王子遺跡・山中遺跡・北川田遺跡・苗代遺跡・二タ子遺跡・河田遺跡など、南北約３㎞、東西約1.5㎞の範囲に弥生～古墳時代の著名な遺跡が集中しており、今後とも目が離せない地域といえる。　（樋上　昇）



南木戸遺跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	みなみきどいせき
書名	南木戸遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第130集
編著者名	樋上　昇・鬼頭　剛・植田弥生・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
みなみきど 南木戸	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 はぎわらちょうかわだかた 萩原町河田方 みなみきど 南木戸	23207	02082	35度 17分 3秒	136度 46分 16秒	2003.04.14 ～ 2004.05.14	195	愛知県水道用水供給事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南木戸遺跡	集落	古墳時代	竪穴住居11棟 掘立柱建物2棟 溝1条 土坑55基	S字状口縁台付甕 高杯 パレススタイル壺	萩原遺跡群の一角を占める集落で、特に1期には直角に折れ曲がる区画溝が、2～6期は2～3棟程度の竪穴住居・掘立柱建物が確認された
		古代	竪穴住居2棟 溝1条 土坑67基	須恵器杯蓋・身 須恵器擂鉢 伊勢系土師器甕 木製品	
		中世	土坑14基	灰釉系陶器・木製品	
		近世	溝6条 土坑12基	陶磁器	

文書番号	発掘届出(14埋セ第171号・2003.3.10)　通知(14教生第72-16号・2003.3.18) 終了届・発見届(15埋セ第15号・2003.5.26)　鑑査結果通知(14教生第72-16号・2003.12.25)

要約	南木戸遺跡は日光川左岸の沖積微高地上に立地する古墳初頭を主体とする集落遺跡である。昭和37年の名神高速道路建設の際、河田方高架橋の敷設工事において廻間Ⅰ～Ⅱ式期に属する大量の土器と木製品が出土して遺跡の存在が知られるようになった(『一宮市史　資料編二』所収)。 今回の調査は、名神高速道路南側の側道にあたる市道256号線の下に水道管を埋設するための事前調査として、幅約3m、全長約70mの調査区を設定した。その結果、調査区の西寄りで幅がおよそ40mほどの微高地を確認した。さらに微高地の西半分にあたる約20mの範囲で、廻間Ⅰ式期後半～Ⅱ式期初頭に属する竪穴住居11棟と小型の掘立柱建物2棟、溝1条、土坑55基を検出した。集落はおよそ6期の変遷が認められる。うち特に1期は、居住域の西辺がL字に折れる幅4～5mの区画溝を確認した。2期～6期は調査内でそれぞれ2～3棟の竪穴住居があり、その東には小型の掘立柱建物数棟と土坑群が集中して築かれている。 このほか、8世紀前半の竪穴住居2棟と溝1条・土坑67基、中世および近世の土坑が多数確認されている。